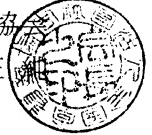


14JJ A第153号
平成14年9月25日

各位

社団法人全国学習塾協会
会長 石井 正



週休2日制実施に関する意識調査について

拝啓 初秋の候 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

私ども社団法人全国学習塾協会は、昭和63年10月『学習塾事業の経営に関する調査研究を行うことにより、学習塾に対する認識と信頼の確保及び学習塾の健全な発展を図り、もって国民生活の向上と我が国の産業経済の発展に寄与することを目的』として、通商産業大臣の許可をいただき設立いたしました全国に正会員796名、賛助会員98団体を持つ公益法人でございます。

「教えられる側」の子どもたちやご家庭の最も近くに居るという自負のある私たち「学習塾関係者」こそ彼らの声を集約し、発表することを急務と考え、このたびの意識調査アンケートの実施となりました。

本調査の結果は、来る9月29日に開催いたします当協会主催の「塾の日フェスティバル2002 in OSAKA」において公表いたしますが、それに先行して報道機関の皆様にお送り申し上げますこととなりました。調査概要及び調査結果概要を添付いたしますので、マスコミの皆様はじめ諸方面でご活用賜れば幸甚に存じます。

敬白

記

I. 調査概要

1. 調査の目的：2002年度からの学習指導要領改訂による児童生徒の週休2日制が実施され一学期が終了した段階において、児童生徒の意識及び行動の実態をとらえ、社会一般の教育に対するニーズを明確にし、もって民間教育産業の事業活動における基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査期間

平成14年8月1日～平成14年9月10日

3. 調査対象

社団法人全国学習塾協会正会員の796学習塾に通う児童生徒

中学生 8,391名

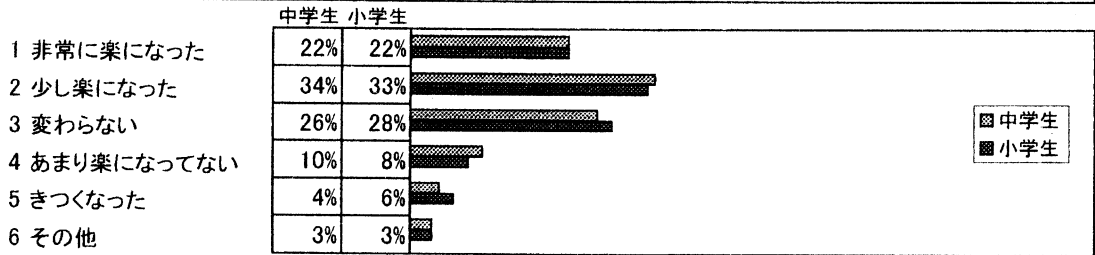
小学生 3,544名

以上

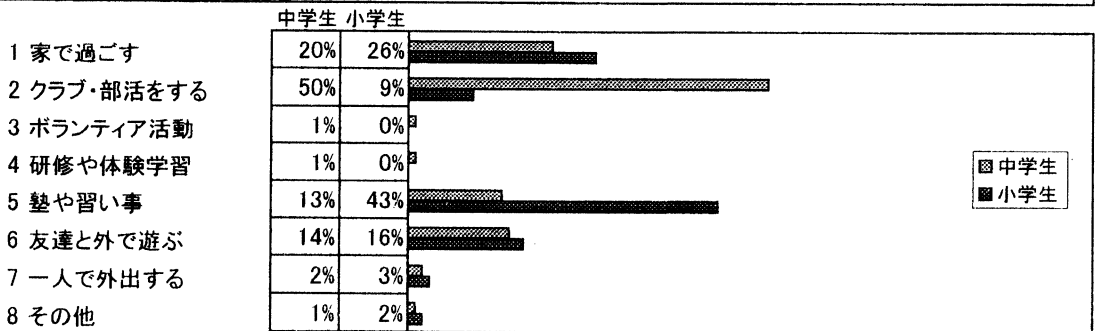
週休2日制実施に関する意識調査の結果

すべて単数回答

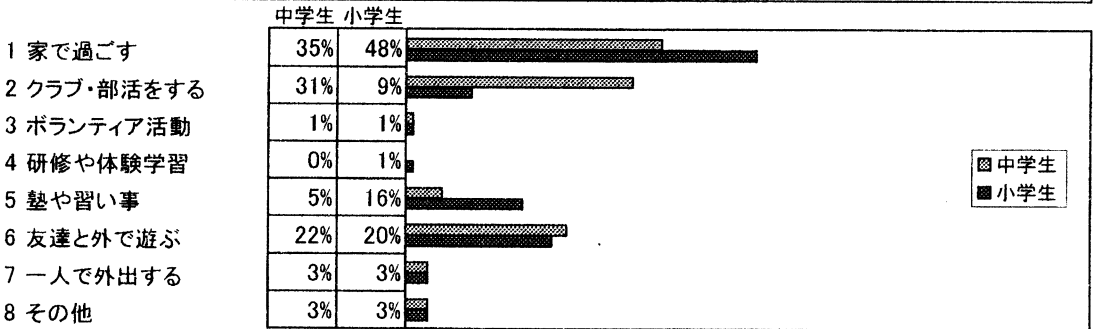
①土曜日が毎週休みになって昨年まで(週休1日)と比べてどう感じますか？



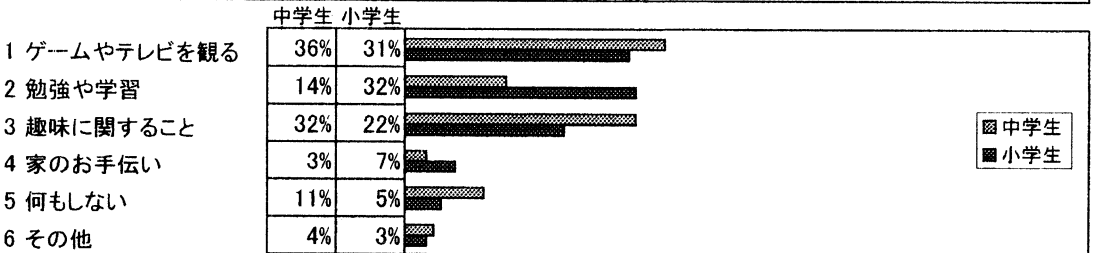
②一学期中の土曜日はおもにどのように過ごしましたか？



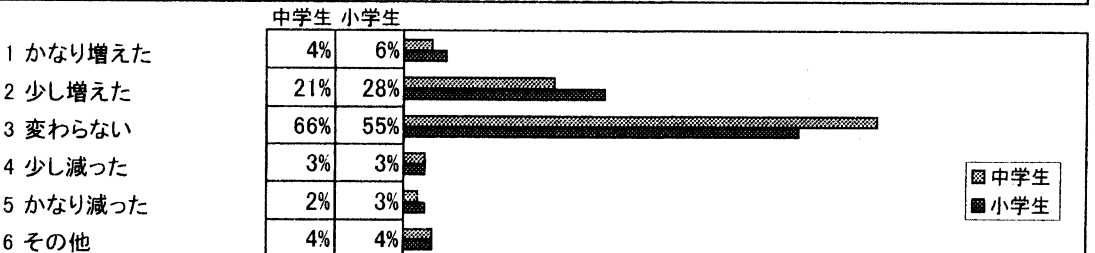
③一学期中の日曜日はおもにどのように過ごしましたか？



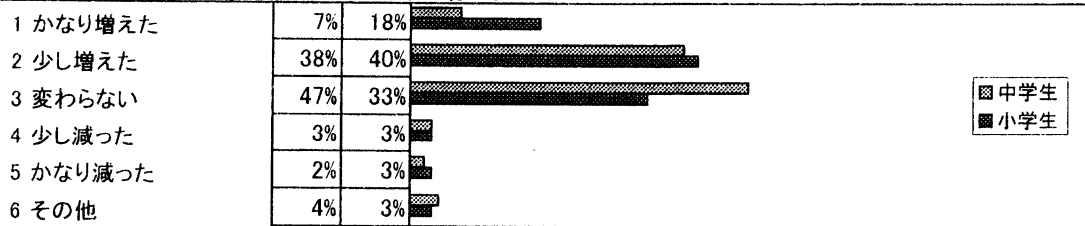
④一学期中の土曜日や日曜日に、家ではおもに何をしましたか？



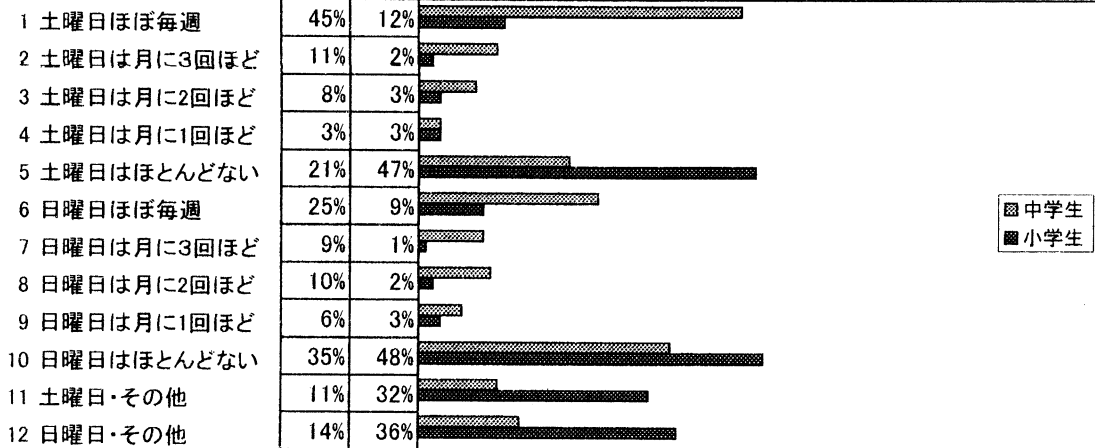
⑤週休2日になったことで、家でお手伝いする時間が増えましたか？



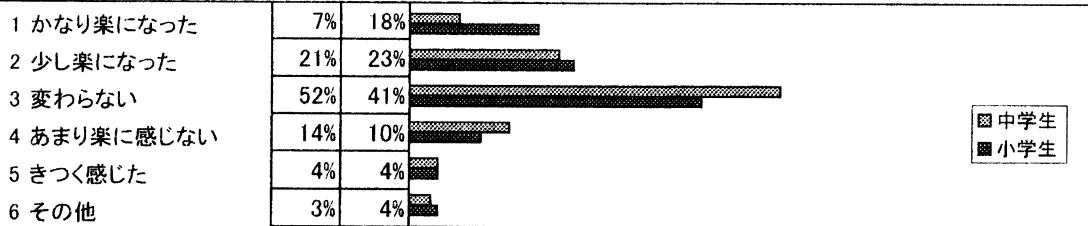
⑥週休2日となって、家で勉強する時間が増えましたか？



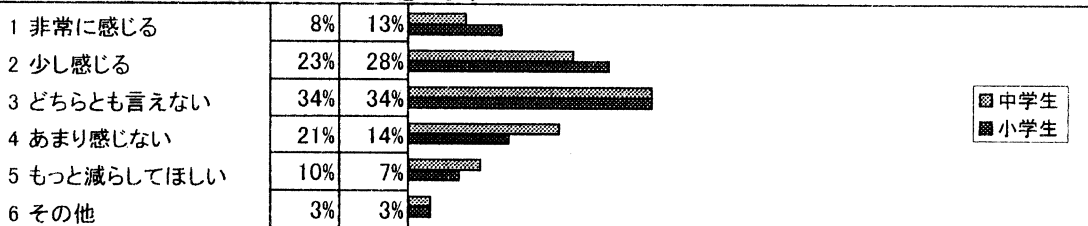
⑦一学期中に土曜日・日曜日の(クラブ)部活動はどのくらいの割合でしましたか？(土・日別に回答)



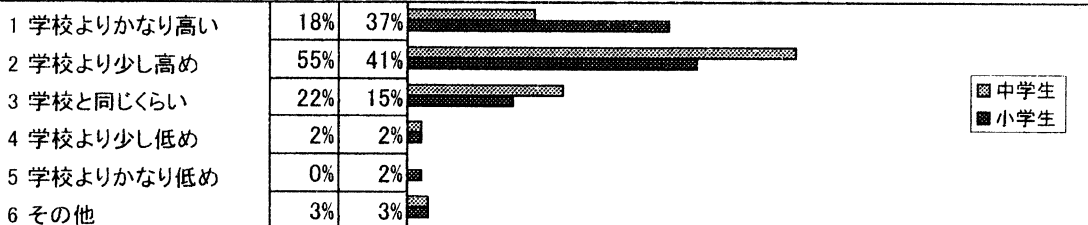
⑧学習内容が減ったことで、学校の勉強をどう感じますか？



⑨減った学習内容も勉強してみたいと感じますか？



⑩塾での勉強のレベルは学校での勉強と比べてどのようだったら良いと思いますか？



この調査は、社団法人全国学習塾協会調査研究委員会が教育改革対策特別委員会（委員長：伊藤政倫）の委託を受けて実施したもので、以下に記す調査結果に関する文章については教育改革対策特別委員会が担当しています。

週休2日制をどう過ごしたか

社団法人全国学習塾協会は、全国の会員塾で「週休2日制に関するアンケート」を実施しました。このアンケートは本年7月25日から夏休みにかけて、全国の学習塾に通う塾生約1万人を対象に実施されました。週休2日制が完全実施されて一学期が終わったところでの率直な「声」を聞き、学習塾には何が求められているのかを調査しました。

①週休2日になって楽になった。

『昨年までの週休1日と比べて、どう感じますか』という問いに対して、小学生の55%、中学生の56%の人が「楽になった」と答えています。また、「変わらない」とする生徒も26%（4人に1人）は居ることになり、時間的な「ゆとり」を感じる一方で、そういうものに関係なく変わらぬ感覚で生活している姿も浮き彫りにされます。

②土曜日はクラブ

中学生は50%が『土曜日はおもにクラブ活動をする』と答え、『塾や習い事』とする13%を大きく上回っています。塾に通う生徒を対象にしたアンケートであるにもかかわらず、この割合を示したことは、実際にはもっとこの差が広がっていることが予想されます。そういう意味では、小学生の『塾や習い事』に43%は極端な数字となりました。

③日曜日は遊び

中学生は31%が『クラブ活動をする』と答え、『家で過ごす』と『友達と外で遊ぶ』を合計すると約57%が遊んでいる（または、それに類する）ということがわかります。小学生はこれが68%という数値を示しています。週休2日制完全実施を前に、文部科学省では「過度の塾通い」を心配する声もありましたが、結果的にはそれを大きく裏切る形になりました。

④休日に家では何をするか

中学生は『ゲームやテレビ』と『趣味に関すること』の合計が68%で、『勉強や学習』と答えた14%を大きく超えています。むしろ、小学生のほうが勉強の割合が高く32%となっています。

休日の勉強離れが進むと、その持続性や意欲に影響があると懸念されるだけに、重要なデータであると考えられます。

⑤休みの増加と家でのお手伝いは関係なし

中学生で『増えた』と答えたのは25%で、66%は『変わらない』としています。小学生も『増えた』と答えた割合が34%と若干多いものの、『変わらない』は55%と半数を超え、休みの増加とお手伝いにはあまり相関関係がないことが推察できます。

⑥家庭での学習時間が増えた

中学生で『増えた』と答えたのは45%で、小学生では58%となっています。設問④で、家ではあまり勉強しないような傾向を見せた割合であったにもかかわらず、この数値になるのは、週休2日制以前に比べて相対的に増えた形になっているものと思われます。

⑦過度のクラブ活動も

1～5は土曜日に関しての問いで、6～10は日曜日に関しての問いです。中学生は『ほぼ毎週クラブ』の答えが45%です。『月3回』の11%と『月2回』の8%を合わせて月の半数以上をクラブ活動に出る中学生は64%となります。また、日曜日は『ほぼ毎週クラブ』と答えた人も25%と多く、『月3回』

の9%と『月2回』の10%を合わせると44%になります。中には両日とも朝から晩までクラブ活動に追われる生徒もあります。特に強化クラブともなるとこの傾向は高くなるようです。

⑧学習内容の削減はどう感じているのか

中学生は『楽になった』とする人が28%、逆に『楽じゃない』と答えた人は18%、『変わらない』とする人は52%となっています。小学生は『楽になった』とする人が41%、逆に『楽じゃない』と答えた人は14%、『変わらない』とする人は41%となっています。この分布割合は、学習内容削減以前も変わらない割合であり、結局のところ、難しく感じる生徒には、仮に3割の内容をカットしたとしても同様の感覚を持つのではないかと推察します。

⑨削減された内容に未練も

中学生は『非常に感じる』と『少し感じる』とする人が31%、逆に『あまり感じない』『もっと減らして』と答えた人も31%と五角の割合です。小学生は『非常に感じる』と『少し感じる』とする人が41%と多く、逆に『あまり感じない』『もっと減らして』と答えた人は21%となり、小学生の方が削減内容に未練を見せる形となりました。

⑩塾には学校より「高め」を希望

中学生は『高め』を希望している人が73%、小学生は78%と『低め』を希望する人を大きく引き離しています。学校が内容削減をすることに関して非常にクールに受けとめた彼らが、塾にはホンネとして（親からではなく、自らの意志で）レベルを下げないで欲しいと希望しています。

調査協力塾をはじめ、全国の学習塾は、この生徒たちの「意思」を重く受けとめ、充分にそのご期待にお応えすることを改めて感じるものです。